

宮前ガバナンス2月号

連載寄稿

平成27年「こども心理ケアセンター整備」へ

川崎市議会議員 石田やすひろ



今月の1枚

震災で天井が崩落したミューザ川崎を視察、今春再始動します。

市内における児童虐待相が位置付けられた。談・通告件数の急増を捉え、この施設は、平成27年に議員提案で制定した「児童虐待防止条例」(通称「虐待防止条例」)の施行が4月に迫った。伴って、行政の体制整備も加速している。新たに示された(仮称)こども心理ケアセンター整備基本計画(案)に

が位置付けられた。この施設は、平成27年に議員提案で制定した「児童虐待防止条例」(通称「虐待防止条例」)の施行が4月に迫った。伴って、行政の体制整備も加速している。新たに示された(仮称)こども心理ケアセンター整備基本計画(案)に

を設け、日常生活の支援を行う。また、対人関係に課題のある子どもを想定し、施設内学級も設置する計画となっている。



川崎市立立川中学校卒業、明治大学大学院(公共政策修士)修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在4期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会でも提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず新聞や広報紙を作成し、その内容について積極的に市政報告を実施。

他のブログ等は
市議会議員 石田やすひろ

市内における児童虐待相が位置付けられた。談・通告件数の急増を捉え、この施設は、平成27年に議員提案で制定した「児童虐待防止条例」(通称「虐待防止条例」)の施行が4月に迫った。伴って、行政の体制整備も加速している。新たに示された(仮称)こども心理ケアセンター整備基本計画(案)に

市は、平成23年9月に市内の児童養護施設221人の子どもを対象に対人関係、集団適応、発達障害など心の実態調査を行った。多くの援助や常時支援が必要な「重篤な課題のある状況」と判断された人数は37名となった。新たな施設の必要性を示していた。

特に重篤に傷ついた心は、専門的な治療が必要だ。それを整えてほしい。